

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	認知症対応型グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100062-00&PrefCd=20&VersionCd=022
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成25年2月8日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

ご利用者様にとって、家に居るような穏やかな生活、メリハリのある生活、個々の気持ちを理解した対応を心がけ、「家庭的で尊厳ある生活環境の中で、心身の力を活かし、安らぎと喜びのある場として利用者と家族の幸せを追求する」この運営理念を職員皆で深く理解し、ご利用者様の幸せ、ご家族の幸せにつなげていけるよう支援させていただいています。

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

職員一人ひとりに対して長期的な研修計画を立てて、学習機会を積極的に提供することで、組織人として求められる職員が育ってきており、この職員の発想力・行動力で「さらにもう一歩先へ」の取り組みがある。前回の評価結果や気づきをホーム全体の取り組みとして、着実に内容が良くなっているのはその証であろう。「何もしないでADLが低下した」とは言いたくないと、日常生活の中で積極的な散歩や室内運動、楽しみながらの嚙下体操や口腔ケア、畑作業など、できる限りの取り組みを展開してADL・QOLの維持・回復に力を入れている事はその一つといえる。毎月発行の太陽通信の付加価値を更に高め、各種の取り組み内容・成果など、利用者・家族だけでなく地域へも広く情報発信する取り組みを更に進めると、グループホーム太陽の理解者・支援者が更に増えるものと想像できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(さくら)				
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ひまわり)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会議、勉強会等での理念唱和を行う等、全社員が様々な場面で理念を共有し、日々の実践につなげています。	「理念とは何か?」など、ホーム理念の意義と位置付けを徹底して学び合い、理念を自らのものとして日常的に具現化している。そして、利用者と同じ気持ちを職員も持つという意識付けのために、理念を基にした職員向けのルールを作成して支援にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常生活による近隣へのあいさつに始まり、地域行事やお茶のみサロン、運営推進会議や事業所行事等にも参加していただき、信頼関係を築いています。	散歩・地域行事・公民館等での高齢者の集いなどへの参加を通して、顔なじみの関係がつけられている。また、幼児、小・中学生との交流、地域行事の際の場所の提供など、来所者も多く関わりのすそ野を広げている。さらに、民生委員やおみこし・厄払いなどの行事訪問、地域の中学生の実習受け入れなども行っていて、多様な付き合いの場が提供されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	グループホームや認知症に対する理解を深めていただけるよう運営推進会議、地域行事への参加等、様々な形で伝えていくよう心掛けています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	グループホームの現状、ご利用者の現状や日常生活を報告し、地域との交流方法や防災協力など地域と一体となったグループホーム作りを行っています。	ホームでの状況説明とともに、新たな取り組みのヒントとするために、提案やアンケート方式で意見を述べてもらっている。提案をうけて避難訓練・地域交流にも一緒に参加し、助言を得て素早く対応している事も確認できる。真に運営を推進するに相応しい、参加者がホームを支える会議内容となってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	疑問点、問題点などがあれば、市の担当者との連絡を取り合い、指導を仰ぎ、また地域包括支援センターとの連携により認知症、独居高齢者等の受け入れなど協力関係を築いています。	担当者との情報交換・相談等が盛んになり、協力関係も良好と思われる。そして、市の認知症対応型グループホームへの理解が高まっていると感じる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が、玄関施錠を含め身体拘束をしないケアを学び、理解し、取り組んでいます。	管理者・職員が高い意識を持っているのであろう、定期的な身体拘束に関する研修があり、職員一人ひとりが十分な認識を持ち、それを維持することで、利用者の自由な生活への支援に現れてきていると思われる。	身体拘束排除に関わる各種課題に対して、メリット・デメリットについて話し合う機会を設けることで、意識も更に高まると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会や研修などへの参加を実施し、皆で虐待防止法の理解を深め合い、職員同士が意識し、行動、言動に注意を払い、虐待の防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全員ではないが、管理者、介護職員共に研修を受け、権利擁護に関する制度を理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用料金等の説明を行い、ご家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこに、誰に伝えることができるかを明確にし、また毎月のご家族へのお便りや意見投書箱等を設置し、ご家族が伝えやすい環境、雰囲気心を心がけています。	利用者・家族からの意見・要望等、言いやすい体制は整備されている。そして、出された意見等には迅速に話し合い、サービスの改善に活かしている。結果として、利用者・家族からの信頼度も高まってきている。	出された要望等についての回答を、毎月発行の太陽通信や掲示等で公表すると、透明性だけでなく、利用者・家族の要望に対するホームの姿勢をアピールすることにも繋がり、信頼は更に増すと考えたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、勉強会等により職員との意見交換を行う機会を作り、また普段からも随時、必要な際には時間を作り、職員の言葉に耳を傾け、必要なことを反映させています。	毎月1回のサービス向上運営会議が、職員の発想力・向上心を高めている。管理者は常に聴く耳を持っており、職員のモチベーションを維持・向上させる取り組みとなっている。職員からの提案で、写真入りの独自マニュアルの作成や、生活状況記録様式の工夫など、支援の質の確保・向上にも効果が表れていることが確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の気持ちや努力等を把握し、適正に評価されており、意欲向上につながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所として、個々のレベルアップにより、事業所自体の質の向上を求め、様々な内外で行われる研修・勉強会に参加し、実践することを積極的に取り入れ育成に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会に外部講師の講義を取り入れたり、病院との連携やグループホーム同士の連携の中で、勉強会や交流会を開き、他事業所との意見交換や知識交換を行い、資質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、本人の言葉に耳を傾け、不安や要望の把握に努めながら信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時、面談時等、ご家族の不安や要望等の気持ちを理解するよう努め、不安や要望を解消できる方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談、申込み、面談等を行う際、細かい情報をいただき、ご本人、ご家族に何が 필요한のか、どんな心配事や悩みを持っているのかを見極めながら必要としているサービス、支援の検討、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意志や尊厳を大切に、常に会話を持ちながらできることを行ってもらい、職員の一方向的な指示や行動を慎み、共に支え合っていける関係づくりを築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時のコミュニケーションや、ご家族に参加していただく行事を大切に、ご利用者にとって大切なご家族がいつもそばにいてくれることに感謝しながら、信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者によって差はあるが、ホームに来てくださる友人・知人の方々との関係は継続されており、また思い出の場所、馴染み深い場所への外出等にも努めています。	利用者本人が行きたい場所へは、可能な限り思いを叶えるように努めている。 また、友人・知人の来所を温かく迎え入れ、気やすい雰囲気づくりを心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の相性・性格等を把握して、普段の生活の中で役割・レクリエーション等を行いながら孤立しない関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて、他施設に移られたご利用者・ご家族との連絡・相談・支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや希望を生活の中で掴み、ご利用者状況、ADLに応じて、「尊厳」や「人間らしさ」を大切にご本人に合った生活や支援に努めています。	普段の生活の中から、暮らしへの思いや何をしたいのかなど、意向の把握に努めている。そして、会議において、利用者の言葉を表面的に捉えるのではなく、心身面を見据えた利用者目線での話し合いがなされており、支援に繋がっていることも確認できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族、関係機関(居宅ケアマネやこれまでのサービス事業所等)からの情報や話し合いを行い、それらの情報を職員全員で情報共有し、それまでの暮らしや思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送り事項や会議等により、現状の確認・心身状況やADL等の情報の共有を行っています。 また「有する力」を発揮できるよう生活、過ごし方に配慮し、改善を行いながら支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族や病院等の意見・要望を基にケアプランを作成し、職員皆でモニタリングを行い、現状に即したケアプラン作成と実践を行っています。	介護計画は本人の生活への思いと、QOLを含めた総合的な視点での話し合いが行われている。 毎月のモニタリングと2か月に1回のきめ細かな見直しで、利用者本人の「今の計画」となっている。	今を生きる利用者に沿った介護計画となるよう、今後も維持・継続・進化を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等に様々なご利用者状況を記入し、情報の記録化を進め、スタッフ間で情報共有、モニタリングを行い介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者、ご家族の様々なニーズに対応できるよう、病院との連携、リハビリ、食事等柔軟な対応を目指し、また様々な喜びや笑顔のため新しい試みを日々検討、実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶のみサロン、地域祭り等に呼んでいただき、また地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の暖かさを感じることのできる生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族のご理解、ご指示のもと、かかりつけ医との24時間対応、往診等協力体制を築き、また専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制を整えています。	本人・家族の納得を得て協力医療機関での受診と、隔週の定期的な往診・訪問看護を受けるとともに、専門医等の受診も支援している。その受診結果は全職員が共有するシステムとなっている。 また、ホームでの健康チェック表を活用して協力医療機関との話し合いを定期的に行い、リハビリにも力を入れている。 さらに、職員会議を通して、薬についての効能などの研修もあり、効果的な支援に向けた取り組みとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間、365日の体制でご利用者様の状況変化に対して相談、受診等の対応ができる体制となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各ご利用者のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご利用者の現状や状況変化について、ご家族との話し合いの場を随時設け、連携医師を含めて今後の方向性を相談するなどの対応をしています。	利用開始時に重度化や終末期に伴う意見を確認するとともに、随時話し合っている。 現在、本年度の看取りは無いが、ホームの謳う「利用者にとって幸せな終末期」に沿い、健康チェック表と業務日誌の活用を経て職員の共有化と、関係機関との連携が確認できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法、避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜の避難訓練等を含めた研修を行い、全職員が迅速に災害に対応できるようにしています。 運営推進会議や地域避難訓練等の場で地域消防団、地域住民との協力体制を築いています。	運営推進会議の委員が訓練にも参加し、訓練後の意見交換からの改善も確認でき、利用者の安全確保への意識レベルも高まってきている。 そして、ホームの有事の際での地域からの支援、地域の避難場所としてのホームの姿勢などから、「共助」関係が確立し始めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ、入浴、着替え等には細心の注意を払い、一人ひとりの尊厳を大切に、プライバシー保護に努め、日々の声掛け、傾聴を大切にしています。	利用者の尊厳を理念に謳い、定期的な研修で理解を深めている。 そして、利用者の日々の生活には個人を尊重した対応が確認できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着替え、散歩、食事等、様々な生活の場面で自己決定の場を作り、ご利用者が希望や思いを表現できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員皆で優先すべきは「ご利用者の気持ちや思い」であることを理解し、その人らしい生活を目指し、実践しています。状況によって、時々我慢していただく場面もあり、今後も今まで以上に大切にしていってほしい項目と考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の洗顔、髭剃り、整髪に気を配り、外出時等も服装はご利用者が着て行きたい服を決めるなど、その人らしさを大切に取組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は季節の旬の物、バランスや盛り付けにも工夫し、ご利用者の「楽しみ」となるよう工夫し、また準備や片づけも積極的にご利用者に関わっていただいています。	買い物・調理・片付け等、本人の力が活かせる場面を提供し、生活の張り合いとなっている。広い畑で利用者で作った野菜は食卓の賑わいとなっている。また、協力医療機関の栄養士のアドバイスを得て、栄養面への配慮も窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事はチェック表により把握できるようにし、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量、栄養補助食、キザミ食やトロミ食などバランスや健康を確保できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施し、個々のご利用者に応じた介助を行い、自立されている方にも見守りや確認を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表等を参考にして把握し、トイレでの排泄、自立した排泄支援に努めています。	健康チェック表は一目で全てが分かる様式であり、体調管理や調整がスムーズに行われている。排泄チェックからリズムを把握して、一人ひとりに合った声掛けや支援でトイレの排泄を可能にしている。 対処法から原因法へと、意識が変化してきた証であろうと感じる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事・水分での予防・工夫を行うとともに、個別に医師との相談を行い、解決や予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	午前、午後と時間帯は決めず、「お昼寝をしたいから午前に入りたい」、「汗をかいたから」等ご本人の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。	本人の意向に沿った入浴支援に努め、入浴拒否の場合は、声掛けのタイミングをずらしたり、対応を変えるなどの工夫をして、本人に合わせた支援を行っている。 全ての利用者とのコミュニケーションが取れ、現在拒否者はいないという。また、午後の入浴が中心だが、午前の時もあるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者の状況やその日の体調や希望により、ご利用者に必要な休息を取っていただき、不安がある時は、ゆっくりと話を聞き、お茶をして安心できる環境を整え、安心して眠ることのできるよう取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、スタッフ1人ひとりが責任を持ちダブルチェックできる体制を整え、服薬支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や毎日の日課の中で、役割、散歩、リハビリ等メリハリのある生活を送り、会話を楽しみ笑顔を大切に、小さな喜びを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、ドライブ、畑、買い物、日向ぼっこなど日々の生活の中で外に出る取り組みを行っています。	ユニット全員での散歩・ドライブ・行事参加を積極的に実施するとともに、個別な買い物・喫茶店利用、音楽鑑賞等、主体性を引き出す支援にも力を入れている。 また、ユニットごとの行事だけでなく、外出が不足がちな利用者にも考慮して、隣のユニットへ出かけて合同での行事も用意している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	必要になれば所持してもらえ環境ではあるが、現在所持しているご利用者はいません。 また、[使う]ことを今後支援できるよう体制の構築に努めます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望により、電話をかけ、ご家族などと話し、声を聴き安心できるよう配慮しています。 葉書などはご本人と一緒に読み上げ、ご家族、ご友人からのお手紙を楽しんでいただくよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部、居室等の温度調整を適正にコントロールし、季節にあった飾りつけやお花、行事時の写真等を掲載し、皆様に楽しんでいただけるよう工夫しています。	使い勝手の良い共同生活空間は、定期的な掲示物の交換など、職員の心配りで寛ぎの場所となっている。 また、利用者同士の生活写真も時期ごとに交換・掲示するなど、居心地の良さに向けた配慮も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では、小上がり、ソファなどで各々の居場所でくつろぐ場面がみられ、またご利用者同士の気の合う、合わないを把握し、食事のテーブル席へついていただく等の配慮を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者、ご家族と相談し、居室空間は各々の大切なもの、また日常生活や写真などを飾り、ご利用者が自分の部屋であると安心できるよう配慮しています。	本人・家族と相談しながら、生活感のある本人の気に入った部屋の作りとなっている。 また、行事等の集団での写真は共有空間にあるが、家族と共に落ち着いてゆっくりと観られる個人用の写真の掲示などもあり、両者の触れ合いの時間を大切にするホームの姿勢が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者のADLを把握し、「できること」、「危険なこと」を理解し、安全と自立のバランスを保つよう努めています。		